熊本県市町村広報担当者による合同防災特集

愛する人を守る 二つの言葉

Kumamoto Prefecture Public Relations Association 合同特集

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、私たちの想像をはるかに超えた被害をもたらしました。約180万人が暮らす熊本県でも、災害が発生しないという保証はどこにもありません。自分や大切な人の命を守るため、今一度、防災について考えてみましょう。

多くの命を救った奇跡

災害が起きたとき、あなたを助けてくれるのは誰だと思いますか。自衛隊や警察、消防署の人だと思いますか―。

東日本大震災の死者・行方不明者は、合わせて約2万人を数えました。そのような大災害の中、多くの子どもの命が助かった地域があります。

それは岩手県釜石市。同市は津波による被害を受ける可能性が高いため、防災教育を徹底してきた地域です。その教育を受けた子どもたちは、避難に関して十分な知識を持ち、訓練を積み、助け合う精神を育んでいました。地震が発生すると、釜石市の中学生たちは、津波が発生することを想定し、自分の身を自分で守りながら、小学生と保育園児を連れて避難しました。

このことから、大きな災害が発生した場合には、まず自分の命は自分で守ることが大切なのが分かります。

奇跡から学ぶ自助と共助

釜石市の小中学校が管理する生徒の津波による犠牲者はゼロでした。それは「釜石の奇跡」としてメディアなどで報じられました。しかし、子どもたちは教えられた通りに行動しただけです。彼らに根付いていた自分の命は自分で守る「自助」と地域の人たち同士で守り合う「共助」の精神。「釜石の奇跡」は、奇跡ではなく、当然の結果だったのかもしれません。

あなたを守るのは、あなた自身。そして、大切な人を守るためには、お互いに助け合うことが重要です。

「自助」と「共助」を知ることが、防災の意識を高めることにつながるのです。

熊本県内の広報担当者が一緒に制作した防災特集。地震や風水害などの自然災害は、私たちに突然襲いかかります。家族や恋人、友人を守るために大切なことは「自助」と「共助」でした。この二つの言葉は、まず自分が生き延びることと日頃から地域のつながりを大事にすることの大切さを教えてくれました。愛する人を守るために、二つの言葉を忘れないでください―。

熊本県 災害年表

幾度となく自然の猛威にさらされてきた熊本。過去にどのような災害が発生しているのでしょうか。熊本を襲った災害を年表で振り返ります。

白川大水害（昭和28年6月）

県北中部を中心に発生した集中豪雨。死者・行方不明者は500人超、家屋全壊は1,000戸を超えた大水害。

台風18号災害（平成11年9月）

県内全域が大きな被害を受けた台風災害。宇城市（旧不知火町）では、高潮で12人が犠牲になった。

県南集中豪雨（平成15年7月）

九州の広範囲を襲った集中豪雨。水俣市では大規模な土石流が民家を直撃。19人が犠牲になった。

梅雨前線豪雨（平成19年7月）

梅雨前線による豪雨で河川が氾濫した豪雨災害。美里町では道路寸断、土砂崩れで集落が孤立した。

（参考）熊本県防災情報ホームページ（写真）熊本県大水害寫眞集

Special Interview

交流が人を救い、救われる―

東日本大震災復興構想会議議長や防衛大学校長を務め、阪神・淡路大震災を経験した五百旗頭真さん。TKU報道フォーラムのために来熊した五百旗頭さんに災害において重要なことは何なのかを聞きました。

五百旗頭 真（いおきべ まこと）さん

Profile
昭和18年兵庫県西宮市生まれ。京都大学法学部卒、同大学大学院修了。神戸大学大学院教授、日本政治学会理事長などを歴任。吉田茂賞、吉野作造賞など受賞多数。現在、防衛省防衛大学校長、東日本大震災復興構想会議議長を務める。68歳

阪神・淡路大震災の時、私は兵庫県西宮市の自宅にいました。直下型地震のすさまじい揺れに生きた心地がしませんでした。室内を家具が飛び交うのを感じました。でも、家族全員が無事だと確認できたときは、心からホッとしました。

停電で辺りは真っ暗でした。人は、情報の暗闇の中では、あらゆる妄想をしてしまいます。「これほど揺れるのであれば、日本が沈没してしまうんじゃないか」とさえ思いました。その後、トランジスタラジオで淡路島が震源であることを知りました。

災害時に情報を得ることは、安心感を得ることです。情報のありがたみを改めて認識しましたね。

地域コミュニティーで支え合うことも、防災ではとても大事なことです。阪神・淡路大震災の時、救出された人が多い地域には「祭り」がありました。祭りには、住民同士が交流し、お互いに協力し合おうという雰囲気が生まれる効果があります。そんな交流のある地域では、誰かが、がれきに埋もれたとしても「あそこには誰かいたはず」と助け合えるのです。こうした「共助」を進めるためには、日頃からのコミュニケーションが大切なのです。年に1回でも祭りやスポーツ大会などで交わりのある地域になることが、とても大切だと思います。人を助けるためには、自分の安全を確保することが大切です。自らが災害に対する強さを持てば、人を助けることができるのです。

日本は地震の多い国です。早急に東北を完全に復興させて、次の災害に備えなければなりません。東日本大震災を忘れず、この悲惨をかみしめつつ、必ず来るであろう次の大災害への減災に努めることです。

熊本県は、九州の中央に位置し、自衛隊など防衛拠点が集中しています。熊本県が自らの安全性を高めながら助ける能力を持つことが、日本全体にとっても大変貴重なことだと思います。県民の皆さんも地域のつながりを大事にしながら減災・防災の心を大切にしてほしいと思います。